

安全



安心

# JAL不当解雇撤回ニュース

No 193号 2012.08.17  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>

## JAL123便事故から27年 今こそ史上最高の利益を安全に! 安全運航へのカギ すべての争議の全面解決!

日本航空の123便御巣鷹山事故から27年、今年もあの8月12日を迎えました。猛烈な暑さが続く13日、JAL 不当解雇撤回裁判原告団と日東整争議団の共催で、有楽町 JAL プラザ前宣伝行動を行いました。参加は44名。通行する人々にビラを配り、日本航空の利益優先の経営姿勢を正し、JALの不当解雇を撤回しベテランのパイロットと客室乗務員を職場に戻すこと、また、日東整の整備士の解雇を撤回し日航の整備子会社 JALEC にて雇用を継続することなど、すべての争議を解決することが、安全第一の日本航空の再建となることを訴えました。



### 世界では SRI が大きな流れに

スカイネットワーク 相沢さん



日東整の事業終了は、JAL が企てた計画倒産そのものです。突然契約を解除し、仕事は別の整備子会社 JALEC に移し、雇用は守らずに退職に応じないベテランの整備士を解雇しました。こんな横暴な子会社潰しを許したら、安心して働くことはできません。世界では CSR (企業の社会的責任) を果たしているかを重視して投資行動をとる SRI (社会的責任投資) が大きな流れです。上場を前に、全ての争議を解決して安全優先の経営に改めるべきです。

### 安全のために経営は何をするのか

パイロット原告清田長

27回目の8月12日を迎え、改めて JAL の経営姿勢を問いたい。今月の社内報の中で、稲盛名誉会長は高収益経営をめざすことを述べていますが、「安全」の文字はひとつもありません。植木社長も「安全は大事だ」と言いながら「安全のために経営は何をするか」は一切述べていません。経営の果たすべき責任に一切触れず「現場の社員はしっかりしろ」では、安全な JAL の再建は図れません。社員を大事にし経営の責任を果たすべきです。





## 520名ものいのちを奪った事故、 2度と起こしてはならない

客室乗務員原告 斎藤さん



稲盛さんは就任直後に「日本航空の社員は御巣鷹のトラウマにとらわれている」と言いました。私たちは、二度とこのような悲惨な事故は起こしてはいけない、との思いで安全運航を守るために、組合を通して会社にはっきりものを言ってきました。

520名もの尊いいのちを奪った

事故を社員全員が忘れない、二度とあのような事故を起こさない、トラウマにならなくてどうするのでしょうか。JALは一刻も早く、安全のために熟練の整備士、パイロット、私たちを戻すべきです。



## 国民の安全・健康を守るために 明治乳業とたたかっています

明治乳業争議団 二瓶さん

明治乳業も、もの言う労働者を排除するために賃金差別や人権無視の攻撃を行ってきました。賃金昇格差別を撤回させるために28年間たたかっています。福島原発事故の被害により明治乳業の粉ミルクの放射能残留が明らかになり、マスコミにも指摘されましたが、



基準値以下なので公表する必要はないとしています。こうした安全軽視の経営体質を改善させるために、そして不当な差別を許さず、すべての働く人の生活と権利を守るためにたたかいます。

## 本当に「安全を第一」と考えるなら この不当解雇の解決を

東京争議団 寺島事務局長



先日、私教連の集会で長崎までJALとANAを利用し、どちらも機内販売など本来の業務以外のことをさせられ、客乗の方々の労働現場の大変な状況を目の当たりにしました。昨夜は御巣鷹の慰霊の番組の中で植木

社長のコメントがTVで放映されていました。「安全を第一に考えます」と言うなら、解雇をきちんと解決すべきです。長い間JALの安全を担ってきた日東整の整備士たち、経験を積んだベテランのパイロットや客室乗務員の不当解雇を撤回して職場に戻し、労働条件改善のために職場の声を聴く、そのことが「安全第一」のJALの再建なのです。

## 安全第一の日本航空に変える JALECで雇用を継続せよ

日東整争議団 泉団長

2011年1月、JALは突然日東整への仕事をはずし、全員解雇しました。30年間、JALの安全を支えてきた労働者を使い捨てにしたのです。日東整はJALの整備本部からも表彰され、その整備能力は高く評価されていました。私たちは解雇を撤回させ、JALの責任でJALECに雇用を確保させるために、そして安全第一の政策に改めさせるために闘い続けます。



## JALは安全にお金をかけて

御巣鷹山墜落事故のときはまだ1歳でしたので、当時のことはわかりません。でも、毎年この時期になると悲惨な事故のことを思います。二度と事故を起こさないでほしいです。JALは安全のことにちゃんとお金をかけてほしいです。(立ち止まって弁士の訴えを聴いていた女性)

